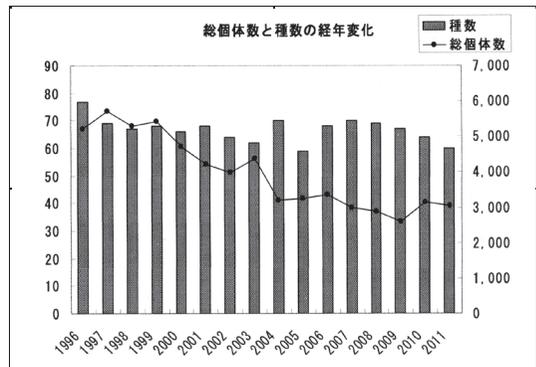


調査報告書の紹介

『府中市域の野鳥たちⅢ 30年間の記録』府中野鳥クラブ刊

最近、いろいろな場所で、“鳥影が薄い”と感じることはありませんか。山に登っても、海辺を歩いても、街なかを探索しても……。21世紀に入って、年々それを感じる今日この頃ですが、今春発行された『府中市域の野鳥たちⅢ 30年間の記録』には、明らかに減っている事実が示されています。グラフは1996年～2011年の16年間における、対象地全域での種類数〔グラフ左の数字〕と総個体数〔グラフ右の数字〕の推移を示したものです。棒線で示された種類数はあまり減っていませんが、折れ線で示された総個体数は明らかに右肩下がりで、ピーク時（1997年）に比べ、ほぼ半減しています。その原因は個体数の多いスズメとカルガモの減少とのことです。

この報告書を出した「府中野鳥クラブ」は、1982（昭和57）年3月に、「府中市域を中心に、野鳥の観察、記録調査をもって、地域の自然保護・普及に資する」ことを目的に、会員28名で発足した団体です。30年にわたり、多摩川（是政橋～大栗川合流点）、多磨霊園・浅間山などをおもなフィールドとして活動されて、今では会員数は増え、年間100回を超える活動実績をほこり、「多摩川流域ツバメ集団ねぐら調査連絡会」などの主要メンバーとして活躍されています。今回出版された報告書のタイトルに「Ⅲ」とあるように、創立20年と25年にそれぞれⅠとⅡが刊行されていて、今回は内容的に充実度が増しています。



掲示したグラフは、同会が定期的にラインセンサスなどの調査をした結果のひとつで、目で見ることのできる自然環境指標ともいえる「野鳥」に、明らかに減少傾向という変化が生じているということは、生物界全体への警鐘と読み取れます。

巻頭には8ページにわたって、府中市域の野鳥観察地のカラーページが続き、「府中市域鳥類目録」や資料編なども充実していて、東京・北多摩・多摩川沿いの地域の鳥相を知る貴重な資料となっています。会の事務所に寄贈されていますが、入手希望の方は下記にお問い合わせください。〔A4判・150ページ・2013年4月発行〕

〒183-0012 東京都府中市押立町5-13-33 堅山総二様 Fax：042-486-9492

E-mail：kisekirei@qj8.so-net.ne.jp

オオタカが普通種に!? …… 皆さんはどう考えますか

今年の6月3日、環境省から「オオタカの国内希少野生動植物種（種の保存法）からの指定解除の検討に関する意見の募集について」というお知らせが発表され、同日から7月2日までの間に意見を出すようにというパブリックコメント（意見公募手続）が実施されました。趣旨は、簡単にいうと「オオタカの数が増えているので、現在『準絶滅危惧』に指定されているが、『普通種』扱いにしたいが、皆さんはどう考えますか」ということです。

会からも意見書を出し、その全文は当会HP（※1）を開き、保護活動のボタンをクリックすると読むことができます。研究部では、この事態を受けて、東京都内のオオタカの生息実態調査を準備しています。興味ある方は下記のメール（※2）にご連絡ください。

※1：http://tokyo-birders.way-nifty.com/blog/ ※2：office@yacho-tokyo.org